

日本のアマチュアボクシングの競技力向上の方策に関する検討

A study on plan of the improvement of playing ability for Amateur Boxing in Japan

1K05A037

指導教員

主査 吉永武史先生

大久保 賢児

副査 友添秀則先生

<序章>本研究の動機及び目的

私は、9年間という長い年月をアマチュアボクシングに費やしてきた。そして、何度かの海外遠征も経験し、また、日本代表として世界選手権などの国際大会という舞台でも試合をすることが出来た。

そのような経験の中で、アマチュアボクシングの備えた様々な魅力に出会ってきた。また、海外におけるアマチュアボクシングに対する人気の高さや、日本との取り組みの違いにも非常に驚かされた。

近年、日本のアマチュアボクシングは、プロボクシングと比較すると非常に肩身が狭い状況に陥っている。同じボクシングというスポーツでありながら、なぜこのような差が生まれてくるのであろうか。プロボクシングでは世界チャンピオンが現在までに60人も生まれているのに対し、アマチュアボクシングの最高峰の大会であるオリンピックでは過去に1人しか金メダルを獲得していないという状況に陥っている。

私自身、将来は指導者としてアマチュアボクシングに関わっていきたいと思っている。世界レベルで日本アマチュアボクシングが好成績を収めるために、様々な角度から考察を行うことによって問題点の解決となる手がかりを見いだし、これからのアマチュアボクシング選手の競技力向上、また日本アマチュアボクシングの発展のための示唆を得たいと考えている。

研究の方法については、ボクシングに関連する主要な雑誌である「ボクシングマガジン」ならびに「ボクシングワールド」を中心とし過去と現在を見

比べて行く、また、プロボクシングとアマチュアボクシングとを比較しながら問題点を見出していく。

<第1章>

ボクシングの起源やアマチュアボクシングの発足について、歴史を遡っていく。ボクシングにおいて初めてのルールは「ブロートン・コード」である。後に「クインズベリー・ルール」ができ、これが現在のボクシングのルールのもととなっている。日本のアマチュアボクシングは1926年(大正15)年に「全日本アマチュア拳闘会」が設立されたことによる。オリンピックには第9回アムステルダム大会に2名の選手を派遣したことが始めてである。現在ではオリンピックに出場するに当たりアジア予選が導入されオリンピック出場が困難な状況が続いている。

<第2章>

プロボクシングとアマチュアボクシングは様々な点において異なる。ウェアの着用の有無、ヘッドガードやグローブといった道具、またボクシングにおいて最も重要な階級においても大きな違いがある。

アマチュアボクシングの問題点としては国内の大会が国際大会とルールの面で異なっていることがあげられる。また国内においてもルールの一貫性のなさがあげられる。日本のアマチュアボクシングのトップレベルの選手は現行では大学生が大半を占める。これは、アマチュアボクシングの競技に取り組める環境のなさがあげられる。

＜第3章＞

アマチュアボクシングの強化体制ならびにJOCによる競技団体をランク付けしての強化費の分配などに課題があげられる。また、競技力向上に対して幼少期からのトレーニングが推奨され、発達段階に見合った適切なメニューを考えることが必要である。それには指導者の育成が急務であり、ボクシングの持つ暴力性を適切に指導できる指導者をボクシング界が一丸となって育成していくことが競技力向上には欠かせない課題といえる。

＜結章＞

ボクシングならびにアマチュアボクシングのルール、問題点などを取り上げさらにはその問題点に対する提言をしてきた。それによって引き起こされる課題に対しては競技団体の協力が不可欠である。最後に、誰もが気軽に、かつ安全にアマチュアボクシングに取り組める環境が作られることを望み、本研究のまとめとする。